

◆授業のポイント◆

- ・ 社会科における探究的な学習の工夫
- ・ 言語活動の充実を図る学習活動の工夫

社会科学学習指導案（歴史的分野）

期日 平成24年5月31日（木）2校時

学級 3年1組（男子18名、女子17名、計35名）

授業者 教諭 小松豊文

1 単元 現代の日本と世界

2 単元について

本単元では冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを通して、第二次世界大戦後の我が国の諸改革の特色を考えさせ、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。そして高度経済成長、国際社会とのかかわり、冷戦の終結などを通して、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させることをねらいとしている。第二次世界大戦後の我が国は、連合軍の占領管理下に置かれ、民主的な国家を建設するために政治・経済・社会の各方面にわたって大規模な改革が実行された。しかし、戦後まもなく発生した東西世界の冷戦は占領政策を変化させた。我が国はアジアにおける西側陣営の強力な一員と考えられ、1950年の朝鮮戦争を契機に、1951年に開かれたサンフランシスコ講和会議で独立を回復し、国際社会に復帰した。その後我が国は驚異的な経済的発展を遂げたが、その反面、公害問題や貿易摩擦・地価高騰など様々な問題をかかえるに至った。冷戦が終結してからも、バブル経済の崩壊に伴う経済的発展の鈍化と不安定な政治、東日本大震災の復興等多くの課題をかかえている一方で、国際協調を目指した平和外交の推進や開発途上国に対する経済的援助、地球環境問題への取組等国際社会における我が国の役割はますます大きなものとなってきている。

本学級の生徒は、小学校における日本国憲法の制定、オリンピックの開催等についての学習に加え、中学校においては二度の世界大戦と日本の学習において、二度の世界大戦が我が国のみならず人類全体に惨禍を及ぼしたことに対する理解を深めてきた。また社会科の学習に対する取組も意欲的であり、授業における積極的な発言・発表も随所にみられる。「基礎・基本」定着度調査の結果をみても、「知識・理解」の通過率は7割を超え、特に歴史的分野の「近世の日本」で8割近くに達し、基礎的・基本的な知識が習得できているといえる。その反面、「社会的な思考・判断・表現」の通過率は7割に届かず、思考力・判断力・表現力等の育成の面では十分に満足できる結果を得ることができなかった。

指導にあたっては、本校社会科が探究的な学習の過程として捉えている「課題発見→予想→検証→まとめ・発表」の流れで単元の学習を構成する。まず、これまでの学習を振り返らせながら、保護者等へのアンケートを基に戦後の歴史の流れを概観させる。その後我が国が政治的・経済的・社会的にどのように発展してきたのか疑問をもたせ、学習課題を設定する。次に学習課題を解決するために、「戦後改革」「国際社会への復帰と冷戦」「高度経済成長」の3つのテーマを設け調査し、発表させる。さらに国際社会における我が国の役割について、根拠を明確にして自分の考えを論述し、発表させる。この一連の学習活動を通して、国際社会におけ

る我が国の役割が大きくなったことに気付き、我が国と国際社会の望ましい関係の構築について、有用な情報を選択して的確に判断できる力を育成することが社会的な見方・考え方の育成につながり、ひいては本校社会科が目指す確かな学力の育成につながるものとする。

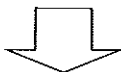
3 習得・活用・探究の授業の関連

習得している基礎的・基本的な知識や技能

- ・ 小学校における既習事項（日本国憲法の制定、オリンピックの開催、経済の高度成長等）
- ・ 二度の世界大戦と日本（第一次世界大戦から第二次世界大戦の終戦までの歴史）
- ・ 総合的な学習の時間における平和学習（知覧特攻平和会館への一日遠足、長崎への修学旅行）

知識や技能が活用された姿（生徒像）

- ・ これまでに学習したことを基に学習課題を設定し、追究の視点を決定することができる。
- ・ 調査した結果をまとめる際に資料を用いて説明したり、自分の解釈を加えて論述することができる。



探究の授業において生かすことができると考えられる力

- ・ 学習したことを基に、国際社会における我が国の役割が大きくなったことに気付き、我が国と国際社会の望ましい関係の構築について、有用な情報を選択して的確に判断できる力。

4 単元の目標

- (1) 新しい日本の建設、経済や科学技術の急速な発展と国民生活の向上、国際社会における我が国の役割の増大など、現代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究して現代の特色を捉えようとし、国際協調の大切さを考えようとする。
〈社会的事象への関心・意欲・態度〉
- (2) 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰や第二次世界大戦後の諸改革の特色、高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現させる。
〈社会的な思考・判断・表現〉
- (3) 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰や第二次世界大戦後の諸改革の特色、高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりさせる。
〈資料活用の技能〉
- (4) 世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことと、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解し、その知識を身に付けさせる。
〈社会的事象についての知識・理解〉

5 単元の指導計画（全8時間）

時間	探究的な学習の過程	学習目標	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
1	・課題の設定	○これまでに学習したことを基に、学習課題を	・学習課題の設定に意欲的に取り組み、学習への意欲	・これまでに学習したことを基に学習課題を設定し、	・学習課題を設定するために、資料から必要な	

		設定し、予想を立てることができる。	を高めようとしている。	学習課題に対する予想を立てている。	情報を読み取っている。	
5	・調査・まとめ	○資料を収集するとともに、文献調査などの調査方法を習得し、調査を行うことができる。	・意欲的に活動し、的確にまとめている。		・目的に応じて資料を収集し、有用な情報を選択している。	
1 本時	・発表	○調査したことを年表などにまとめ、発表することができる。	・調査したことについて関心を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。	・調査したことを基に多面的・多角的に考察し、根拠を明確にして分かりやすくまとめ、発表している。	・調査したことを年表などに分かりやすくまとめている。	
1	・学習のまとめ	○これまでの学習を振り返り、国際社会における我が国の役割について、自分なりの意見を論述することができる。	・我が国や世界の動向と関連のあるエピソード等から具体的な事象への関心を高めている。	・これまでの学習を基に、根拠を明確にして自分なりの意見をまとめ、論述している。		・国際社会における我が国の役割が大きくなってきたことを具体的な事例から理解し、その知識を身に付けている。

6 本時の実際 現代の日本と世界（8/9）

(1) 単元における位置づけ 調査を基にした発表

(2) 本時の学習目標

学習課題について、調査したことを年表などにまとめ、発表することができる。

(3) 授業設計の工夫

まず「戦後改革」「国際社会への復帰と冷戦」「高度経済成長」の3つのテーマについて、各2グループずつで分担して調査し、まとめたことを1つのグループに発表させ、発表の補足・説明をもう一つのグループに発表させる。その際、電子黒板等ICT機器を効果的に活用させるなどして、視覚的にも分かりやすい発表を心がけさせるとともに、教師が発表の内容を踏まえ、習得すべき基礎的・基本的な歴史的事象の確認をする。次に、発表に対する質疑応答を行う。その際、調査していない他の2つのテーマの発表に対して、グループ別に質問や意見について話し合わせ、発表させる。さらにハイブリッドカーの技術開発に関する資料を提示し、技術立国として国際社会において地位を高めてきた我が国が、地球環境問題の解決のために果たすことができる役割について多面的・多角的について考察させる。以上のように、社会科における探究的な学習の過程をふまえながら、言語活動の充実を図る学習活動の工夫をし、思考力・判断力・表現力等を育成していきたい。

(4) 本時の実際

過	時	形	学習活動	○ 指導上の留意点 ◎ 評価 ※ 授業のポイントについて
---	---	---	------	------------------------------

程	間	態		
導 入	4 分	一 斉	1 本時の学習の流れについて、教師の説明を聞く。 〈単元の学習課題〉 第二次世界大戦後、日本はどのように発展し、これからの国際社会においてどのような役割を果たせるだろうか。	○ 説明は、社会科における探究的な学習の流れを掲示して簡潔に行う。
			2 本時の学習目標を確認する。 〈学習目標〉 学習課題について、調査したことを発表しよう。	○ 本時の学習目標を確認させる。
展 開	18 分	一 斉	3 「戦後改革」「国際社会への復帰と冷戦」「高度経済成長」の3つのテーマ別の発表及び補足・説明を聞く。 (生徒の発表の内容) ・「戦後改革」：日本国憲法や諸法律の制定、財閥解体、農地改革等 ・「国際社会への復帰と冷戦」：朝鮮戦争、サンフランシスコ平和条約、日米安保条約、沖縄返還、日中国交正常化、デタント、ソ連の解体、冷戦の終結等 ・「高度経済成長」：オリンピックの開催、石油危機、公害問題、貿易摩擦、バブル経済等	○ 発表と補足・説明を各グループ6分以内で発表させる。 ※ 歴史的事象の特色や事象間の関連を説明する学習活動の工夫（言語活動の充実を図る学習活動の工夫） ◎ 調査したことを基に多面的・多角的に考察し、根拠を明確にして分かりやすくまとめ、発表することができたか。
			4 発表の内容を踏まえ、基礎的・基本的な歴史的事象を確認をする。	○ 生徒の発表の内容を踏まえ、教師が単元の学習を通して習得すべき基礎的・基本的な歴史的事象について確認させる。
			5 発表に対する質問や意見について話し合い、質疑応答及び意見交換をする。	○ 発表に対する質問や意見について話し合わせ、班内で発表者を決めさせ、発表させる。 ※ 発表に対する質疑応答及び意見交換から、新たな課題の発見につなげていく学習活動の工夫（社会科における探究的な学習の工夫）
	10 分	↓ 個		
	10 分	一 斉	6 ハイブリッドカーの技術開発に関する資料から、我が国の国際社会における役割について考察する。	○ 技術立国として国際社会において地位を高めてきた我が国が、温暖化等地球環境問題の解決に果たすことができる役割について多面的・多角的に考察させる。 ○ 発問を工夫し、教師と生徒の対話及び生徒同士の対話を導き出していくようにする。 ◎ 教師の準備した資料を基に、発表の内容を深め、多面的・多角的に考察することができたか。
終 末	3 分	一 斉	7 次時の学習の流れについて、教師の説明を聞く。	○ 説明は、社会科における探究的な学習の流れを掲示して簡潔に行う。